

大きさの違う2つの正三角形からなるヘキサグラムは、異なる次元に広がる3つの空間のつながりを表す3次元の象徴図形である。

2つの正三角形A.Bの比は、同じ大きさの正逆の正三角形が相対的な奥行きを持って重なる事から生まれた遠近比であり、この比と2つの正三角形の相対的な位置が、2つの空間次元とつながるもう一つの空間次元である正三角形Cの比と位置を決定します。それは、正逆の正三角形A.Bの頂点を結ぶ線分の延長線は正三角形Cの3頂点に交わるという原理で、Cの3頂点に交わる線分はこの空間の直角3方向を示します。この正三角形Cによって、AとBの空間の各点を結ぶ放射線の関係が統一され、3次元空間の視覚的秩序を表現する事が出来ます。

2つの正三角形A.Bの相対する座標から3方向に収束する立方体の稜線が得られヘキサグラムA.Bがつくる空間の立方体による分割が出来ます。

正三角形Aの中心(a0)と、正三角形AがB次元へ収縮、移動した位置にある正三角(b01.b02.b03)の頂点とを結ぶ関係は、A空間にある1点から奥のB空間の3点とを結ぶ関係であり、結ばれた3本の放射線は本来a1.a2.a3に結ばれる等しい長さの線分が、奥行きを持つことで角度によって3様に収縮して見える状態です。同様にヘキサグラムの頂点a1は本来A次元ではa01.a02.a04の中心点であり、点a1と奥に収縮した座標b3.b1.2b1を結ぶ事で、3方向に収縮する放射線となります。このように2つの正三角形A.Bの相対する座標を結ぶことで、直角3方向に延びる放射線(立方体の稜線)を求める事が出来、2つの正三角形(ヘキサグラム)の辺上に取った座標から3方向への任意の放射線を求める事が出来ます。

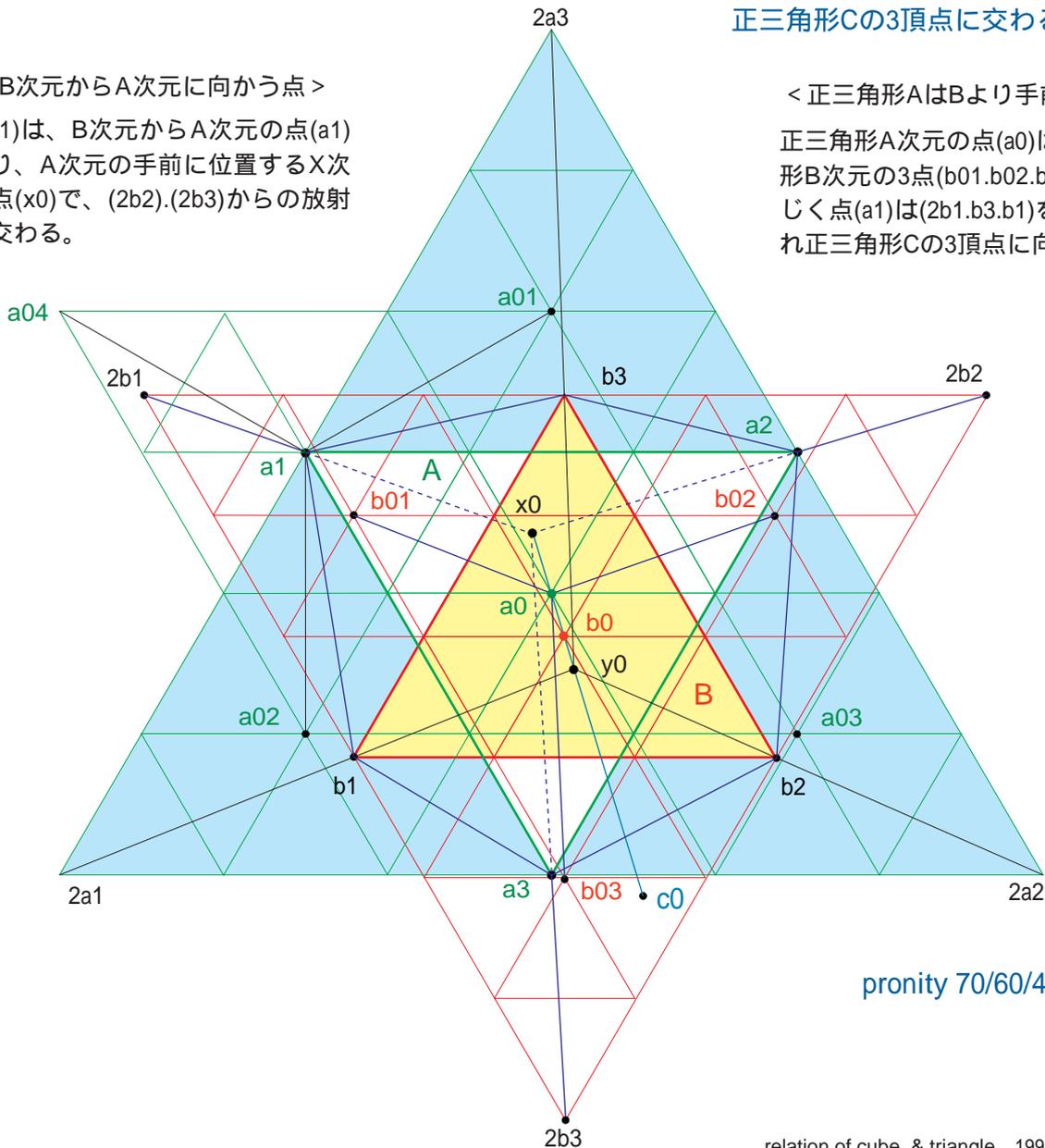
2つの正三角形マトリクスA.Bの相対する座標を結ぶ線分は正三角形Cの3頂点に交わる

< B次元からA次元に向かう点 >

点(2b1)は、B次元からA次元の点(a1)を通り、A次元の手前に位置するX次元の点(x0)で、(2b2).(2b3)からの放射線と交わる。

< 正三角形AはBより手前に位置する >

正三角形A次元の点(a0)は、奥の正三角形B次元の3点(b01.b02.b03)を通り、同じく点(a1)は(2b1.b3.b1)を通り、それぞれ正三角形Cの3頂点に向かう。



pronty $70/60/420=A/B/C$